

# 中 北 海 道

## 現代俳句協会

### 会 報

98号

令和5年  
8月12日発行

しむもの」と結論付けて、妥協、納得させているのである。ところで、新型コロナウイルスの出現から三年半程、あらゆる活動がセーブされてきたが、五月八日には感染症法上、毎年流行するインフルエン



俳句は楽しむもの

荒川 弘子

現代俳句協会の会員が五千人を切ったそうです  
が、確かに全国の俳人数としては少ない。

そういえば、毎年発行される年鑑の厚みも段々薄くなってきたように思える。以前は厚みが五cm程はあり、私など其の厚みに置き場所に困り且つ眼を通しきれない事もあり、途中から年鑑への投句を止めたほどであった。とは言え、若い俳人達の活躍は目覚しく、湧水の如く感性が沸々と迸っているのを感じる。

さて、私が俳句を始めてから何時の間にか三十年は経ってしまった。年数だけは一人前だが、作句力や俳句に対する論理的なものは全く身につけていないことに気付く。挙句の果ては「俳句は楽

ザと同じ扱いの五類となった。中現俳の活動も総会・大会・懇親会・俳句研究交流会など一堂に会しての活動が可能になり、明るい兆しが見えてきた。

ふと、以前中現俳で毎年行われていた吟行句会のことを思い出した。私が参加したのは、平岸の天神山・国際ハウス、真駒内保養センター、ゆにガーデン・ユニニの湯、北海道神宮等での吟行句会だが、所属結社以外の方々と身近に談笑ができて、新鮮な刺激を受けた。中でも一番印象に残っているのは、故星野一郎先生。お名前とお姿は存じていたが、気難しく近寄りがたい印象を受けていた。ところが、ユニニの湯での鍋を囲んでの会食の際、お席が一緒になり、ざっくばらんで、ニコニコされたユーモラスな方だと知り、驚き、心が和むのを覚えたのだった。

さて、諸々の事情・観点から活動の方法は変化していくものと思うが、如何なる企画にせよ委員の方々のご尽力は計り知れない。

## 第三十二回北海道現代俳句大会報告記

青山 醉 鳴

R5. 6.11(日)  
於 札幌サンプラザ

四年ぶりに中北海道が主管となった第三十二回北海道現代俳句大会は、感染対策に留意しつつも基本的にコロナ以前の形式にて開催された。大会参加者八五名、応募句は六一二句となった。冒頭の五十嵐秀彦会長の挨拶では、この三年間の振り返りと、これからの日常生活や俳句会との向き合い方など、自律的であることが重要とお話をいただいた。

大会講演は「音なの俳句」と題し、現代俳句協会理事・堀田季何さんが俳句と韻律について話された。諸外国語も含めた古典から現代までのあらゆる詩型について、文法・スタイルや音楽（音韻）性など、様々な視点からの考察が、解り易い画像で軽快に提示され、会場内は時に唸り、笑い声が巻き起こっては一時間余りを過ぎた。

続いて特別選者堀田季何さんをはじめ、毎回好評を博している各地区会長による北海道現代俳句大会の講評、入賞作品の披講と顕彰が行われた。

引き続きこの場をお借りして、第二十三回中北海道現代俳句賞受賞作品「ざわめく」の亀松澄江さんの顕彰も行われた。賞の選考経過について瀬戸優理子さんから報告があり、新作未発表二十句と規定変更して二年目の今年も応募総数二〇編の活況であったこと、選考会での活発な意見交換の様子や、一次選考上位四作品にての決選投票に至った経緯などが詳細に話された。一次選考で委員満票の支持を受け、一七回目の挑戦で本賞を獲得された亀松澄江さんに、所属する草木舎から花束と、会場からの惜しみない拍手が贈られた。

別室に会場を移しての懇親会には四五名が出席。石本雪鬼副会長の司会、齋藤雅美さんの乾杯の発声で始まった。旧交を温め、楽しい会話の絶えないひとときは、Fよしと事務局長のお開きの乾杯と中田琢志事業部長の閉会の言葉をもって無事終了した。

第三二回

北海道現代俳句大会 入賞作品

大会賞一位 札幌市 渡辺のり子

月おぼろ都市はおほきな難破船

大会賞二位 江別市 長野 君代

引鳥を仰ぐきれいな箸遣い

大会賞三位 札幌市 田岡ヒロ子

少しづつ壊れゆく君ほたる草

大会賞四位 札幌市 齋藤 雅美

どの道もみな逃水に出てしまふ

雪嶺賞 枝幸町 谷川かつゑ

春怒濤あげた拳を捨てに行く

縦賞 幕別町 堂前 真美

啓蟄やこちらのドアが開きます

草木舎賞 札幌市 安田 中彦

しゃぼん玉触れ合ふ毀れ合ふために

雪華賞 札幌市 荒川 弘子

青空に春愁の椅子一つ置く

アジール賞 札幌市 永野 照子

ファスナーを閉じて氷湖となりにけり

佳作賞

札幌市 井尾 良子

防衛という靴音煮くずれたじゃがいも

札幌市 平尾 知子

足湯して山の眠りに加わりぬ

札幌市 辻脇 系一

点眼の一滴春の空がある

札幌市 阿部 満子

桐の実や出生も出征もこの家より

札幌市 亀松 澄江

源二の雪解けぬ雪なり今日も雪

札幌市 黒田さち子

すいみんは胎児のかたち草萌ゆる

札幌市 大河原倫子

こんなにも朝のまぶしい寒卵

上士幌町 江波戸 明

献体は君の品書き冬木の芽

札幌市 松原 美幸

花ミモザ茶舗に小机小座布団

札幌市 林 冬美

雪しんしん時間重たき過疎の町

幌延町 田中 徹夫

世の寒さ暗さ牛の目並びいる

佳作賞（続き）

札幌市 松王かをり

薬缶より春日の束を注ぎけり

帯広市 松原 静子

軒氷柱びつしり父の影法師

札幌市 江草 一美

山河あり馬喰が消え馬櫓消え

札幌市 中田眞知子

ロシア領事館前の派出所小鳥くる

札幌市 新津こずえ

いわし雲窓の大きなケアハウス

札幌市 金子真理子

河童忌や黒い傘だけ濡れてゐる

※一人一賞のため、賞外となった作品

札幌市 齋藤 雅美

風船の空をいくさが通りけり

札幌市 齋藤 雅美

吾と同じマフラー戦場の画像

札幌市 永野 照子

たましひにみちづれのあり雪螢

江別市 長野 君代

もう一度どこかで生まれ大根引く



講演の堀田季何さん、現代俳句協会理事の後藤章さんを囲んで

令和5年度中北海道現代俳句協会  
「俳句研究交流句会」のご案内

- 1 日 時 令和5年8月26日（土）  
受付開始11時30分・開会12時・閉会15時40分ころ
- 2 会 場 かでる2・7 820研修室  
札幌市中央区北2条西7丁目 TEL 011-204-5100  
昼食は各自お済ませ下さい  
(館内への食事の持込みはご遠慮ください)
- 3 出句締切 令和5年7月26日（水）受付終了しております
- 4 会 費 1,000円（当日受付）
- 5 問 合 先 組織活動部 鹿岡真知子  
〒006-0806 札幌市手稲区新発寒6条8丁目10-27  
TEL 011-694-6075  
事務局 Fよしと TEL 011-641-1007

第三三回北北海道現代俳句大会入賞作品

(関係分)

北海道新聞社賞

札幌市 信藤 詔子

ふきのとうこんなところで夢をみて

入賞

札幌市 風花 美絵

三步目は合歡の花まで車いす

札幌市 増田 植歌

明易し畳に生と夢と死と

※一人一賞のため、賞外となった作品

札幌市 信藤 詔子

神様のひとりあそびや木の根明く

第二九回東北北海道現代俳句大会入賞作品

(関係分)

優秀賞

札幌市 林 冬美

冬の月もう人の来ぬ駅いくつ

札幌市 中川みどり

生きてきたように老いたし蝸虫

佳作賞

札幌市 信藤 詔子

桜闇素描の馬のよく動く

札幌市 藤原ハルミ

月蝕の欠片は海に流氷来

北海道俳句協会  
第六八回全道俳句大会入賞作品

札幌市長賞 (関係分)  
札幌市 阿部 満子

寒林や何を捨てれば鳥になる

朝日新聞北海道支社賞 札幌市 菅原 湖舟

玻璃磨く一枚づつに春を呼び

毎日新聞北海道支社賞 札幌市 関根 礼子

万緑に呑みこまれたる離農跡

HBC北海道放送社賞 札幌市 平尾 知子

ほのぼのと惚けていたるちゃんちゃんこ

UHB道文化放送社賞 札幌市 西村 山憧

生きている八月の影曳きながら

北海道俳句協会賞六位 札幌市 信藤 詔子

春愁になりきっている窓の椅子

札幌市 齋藤 雅美

北辺の沃野まぶしき雪解水

北海道俳句協会賞七位 札幌市 遠藤由紀子

恐竜の骨に年輪山笑ふ

※一人一賞のため、賞外となった作品

佳作賞 札幌市 平尾 知子

追伸のように父来る燕来る

第24回 中北海道現代俳句賞 作品募集

応募要領 (会員以外のお応募も可)

- 1 応募作品 題名をつけ、未発表20句 (過去の応募作品の再応募は不可)
- 2 募集期限 令和5年12月15日消印まで
- 3 募集地域 石狩、空知、後志振興局管内にお住まいの方
- 4 応募用紙 指定の用紙を使用 会員には会報98号に同封  
会員以外の方は顕賞係へ返信用封筒に〒・住所・氏名を記載し切手貼付のうえ指定の用紙を請求下さい  
(協会HPからダウンロードも可)
- 5 応募方法 応募料三千円を定額小替為、または現金書留にて指定用紙同封
- 6 顕彰 令和6年4月の中北海道現代俳句大会席上
- 7 作品送付先 〒061-2284 札幌市南区藤野4条5-19-6  
菅井美奈子方 中北海道現代俳句協会 組織活動部行
- 8 選者 五十嵐秀彦・石川美智子・瀬戸優理子・齋藤雅美(新)  
松王かをり・渡辺のり子 以上6氏
- 9 問い合わせ先 会長 五十嵐秀彦 011-852-7014  
顕彰係 菅井美奈子 011-592-6426

# 礎

一原九糸郎

略歴 明治三年〜平成二二年、享年百歳。徳島県那賀郡平島村生まれ。モノタイプ版画家の一原有徳。登山家。虻田郡真狩村を経て小樽市に移住。昭和二年、小樽貯金支局入局。昭和三年頃から小林露石の許で俳句を始め。同人誌『未完現実』に所属。昭和四五年、小説『乙部岳』が太宰治賞候補。平成二年、北海道文化賞受賞。平成二三年、小樽美術館に一原有徳記念ホールがオープン。句集『メビウスの丘』、末岡陸らとの三人句集『潮見台』、社八郎との二人句集『二人の坂』。

やっぱり男おとこだ夏なつのお日様ひなまどもに放尿はなす  
尿はじく九億トンの安山岩  
生ぎるは蝸牛のみ煮えたぎる海と陸  
巨大なパイプ地上に腹を出して秋

青山酔鳴 抄出

## 〔青のフロント〕 佳句抜粹

素面てふたまの真顔や春の宵

中村みずほ

青饅やひとり味わうカタルシス

梨山 碧

予報では禿頭日和雪解風

村上 海斗

面構え反社と呼ばれ鯨五郎

白洲アテナ

春寒やにゃばだばどううと猫会議

青山 酔鳴

## 幹 事 会 報 告

令和5年5月18日(木) かでる2・7/610号室  
議題

- 1 第32回 北海道現代俳句大会 (事業部)
- 2 令和5年度 俳句研究交流句会 (組織活動部)
- 3 中北海道現代俳句賞 (組織活動部 顕彰担当)
- 4 会報 No.98 (広報部)
- 5 三役/顧問/俳句賞選者合同会議 (事務局)
- 6 その他 (事務局) ※出席者 15名

### <ご入会のご案内>

現代俳句協会では、ご入会をお待ちしております。  
ご友人やご家族の俳人を、ぜひご紹介ください。

令和5年7月20日(木) かでる2・7/610号室  
議題

- 1 第32回北海道現代俳句大会報告 (事業部)
- 2 四地区会長/事務局会議の報告 (会長)
- 3 俳句研究交流句会について (組織活動部)
- 4 会報 No.98 (広報部)
- 5 中北海道現代俳句賞 (組織活動部)
- 6 第33回北海道現代俳句大会 (南北海道主管)
- 7 三役顧問/中現俳賞選考委員の会 (事務局)
- 8 その他 (事務局) ※出席者14名

訂正 ※ 会報97号中北海道現代俳句協会総会の記の上段の厚生は、公正の誤りでした。

## 第33回 北海道現代俳句大会のご案内 (南北海道現代俳句協会主管)

- ◇日 時 令和6年6月9日(日) 13時半より
- ◇会 場 ホテルリソル 函館市若松町6-3
- ◇講 演 対馬康子氏 現代俳句協会副会長 ※演題未定
- ◇懇 親 会 ホテルリソルにて16時より

◆ 出句締切・応募先・大会会費・懇親会会費等の詳細は会報99号にてお知らせの予定です

◇ 句 会 案 内 ◇

中現俳事務局主催

「青のフロント句会」

偶数月第2土曜日

13～16時

かでの2・7

席題有当季雑詠3句

問合せ先・五十嵐秀彦

TEL 011-852-7014

※みなさまに案内したい俳句会がございましたら広報部までお声掛け下さい。紙幅のある時に掲載させていただきます。

中現俳会員主催

「中北海道ゼロ句会」

不定期開催

問合せ先・村上海斗

ngh\_zero\_kukai@outlook.jp

「たんね句会」

毎月1回 所要1時間半

月曜か水曜の14時～

手稲区民センター

問合せ先・安田中彦

TEL 090-2819-0088

soyo07soyo01@ybb.ne.jp

「帯俳句会」

毎月第4日曜日 13～16時  
かでの2・7

当期雑詠+席代の2～3句

問合せ先・石川美智子

TEL 0133-74-7401

北大俳句会「えぞりす」

基本的に大学生・高校生を中心とする句会です

不定期開催

問合せ先・千貫幹生

大橋弘典

Hokudaihaiku@gmail.com

ツイッター @hokudaihaiku

会員の出版物のご案内

句集「暗渠の雪」(第二刷)

五十嵐秀彦

書肆アルス 頒価 2,100円(税別)

<https://shoshi-ars.com/>

フリーしりとり「夏麻引く汽水域」

三島ゆかり・青山酔鳴

みしみし舎 頒価 1,000円(税込)

amayoaiemius@gmail.com

会 員 動 向

会員数 102名

(令和4年6月30日現在)

中北海道現代俳句協会

年会費納入の御願い

年会費2千円の振込をお忘れなく。  
手数料もご負担ください。

発行人 五十嵐 秀彦

発行所 中北海道現代俳句協会

〒064-0952 TEL 011-641-1007

札幌市中央区宮の森2条8丁目1-18

F よしと方

編集人 青山 酔鳴

〒061-1354 TEL 090-3398-3457

恵庭市島松旭町4丁目9-1

◆事務局だより

六月一日の北海道現代俳句大会も盛会の内に終了。会員のみなさまのご協力に心より感謝します。俳句と韻律について、広い知見からの考察を例示された堀田季何さんの講演には、俳句の魅力を再発見しました。大会、懇親会ともに、多くの参加がありました。この度一般社団法人となった現代俳句協会からは後藤専務理事が出席され、法人化についての説明、報告と期首当初発生した会費徴収の不手際についてお詫びと説明がありました。当会でも幹事の人数を増やし、充実した運営を心掛けて参ります。八月二六日は俳句研究交流句会。ご投句の方々はお忘れなく会場にお運びください。(よしと)

編集後記

久しぶりにホテル札幌サンプラザで行われた大会は、堀田季何さんの講演もたいへん面白く有意義で、四年前の宇多喜代子さんの来札時のことなども懐かしく思いながら、従来通りのプログラムを無事に消化することができました。懇親会の席は会話にあふれ、楽しいひとときを過ごせました。俳句甲子園地方大会は関係者のみの観覧にて開催されました。小樽潮陵と札幌西にかわって札幌北高校が初エントリーし旭川東高校が本選の出場権を得ました。月末には俳句研究交流句会が開催されます。お申込みいただいた方はお忘れなく会場にお越し下さい。(酔鳴)